



キリスト教教理入門

1. 神学をすること
2. 神の啓示
3. 神の性質
4. 神のみわざ
5. 人間
6. 罪
7. キリストの人格
8. キリストのみわざ
9. 聖霊
10. 救い
11. 教会
12. 終末



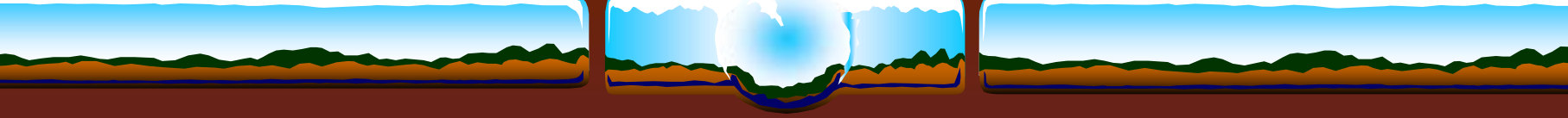
第七部 キリスト論

- ❖ 23章 キリストの神性
- ❖ 24章 キリストの人性
- ❖ 25章 キリストの人格の統一性



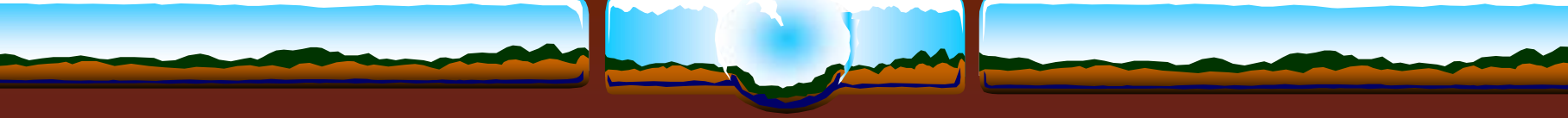
第24章 キリストの人性

1. キリストの人性の重要性
2. 聖書における証拠
3. イエスの人性に関する初期の異端
4. 処女降誕
5. イエスの罪のなさ
6. イエスの人性の意味合い



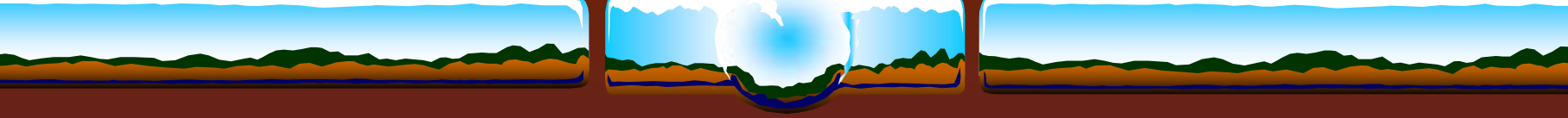
1. キリストの人性の重要性

1. 存在論的隔たり
2. 靈的・道徳的隔たり
3. イエスのとりなしの奉仕



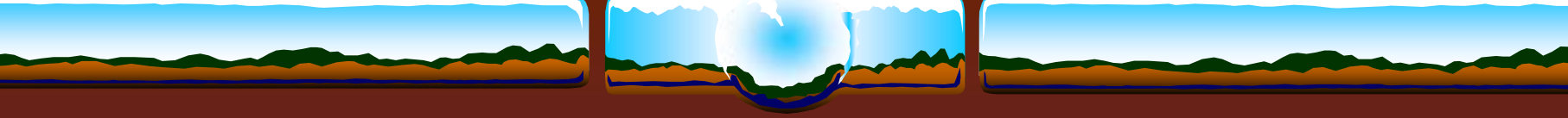
2. 聖書における証拠 人としての肉体的性質

1. 母の胎からの誕生・典型的な家系図
2. 食べ物・水で養われて成長、空腹・渇き
3. 肉体において傷つき、死なれた
4. 「人」という言葉
5. ことばは肉となった
6. イエスは肉体をとられた



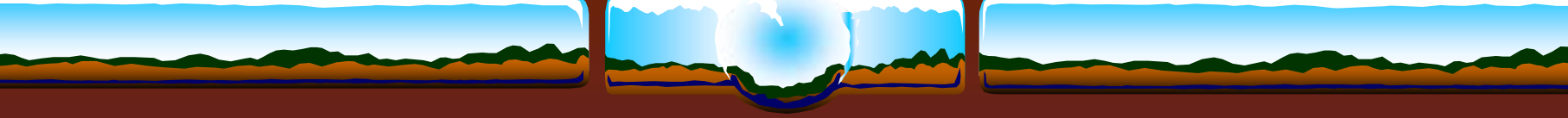
2. 聖書における証拠 人としての精神的性質

1. 考え、論じ、感じられた
2. 真の人間の孤独の表現
3. 涙を流し、うめかれた
4. イエスの知的特質
5. 制限なしではなかった
6. 再臨の時期に対する無知
7. 人間としての宗教的生活
8. 食べ、出血し、眠り、叫ばれた。



3. イエスの人性に関する初期の異端 ドケティズム

1. グノーシス主義、マルキオン派
2. 物質は悪である
3. 神性は完全、しかし人性はみかけのみ



3. イエスの人性に関する初期の異端 アポリナリウス主義

1. 二つの完全な性質
2. 人性における意思なし
3. コンスタンチノーブル会議で断罪

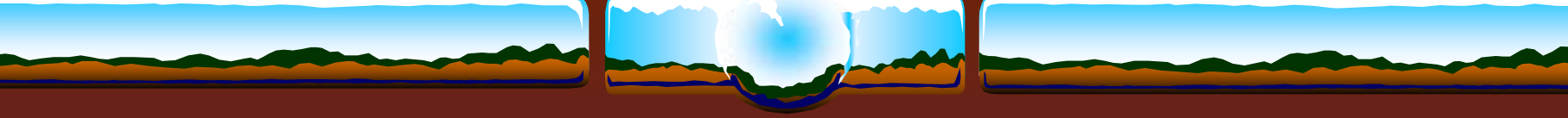


4 . 処女降誕 序

1. 根本主義者とモダニストとの論争
2. “処女”の概念？

1. 聖書における証拠

- ❖ 二つの明白な聖書箇所



4 . 処女降誕 神学的意味合い

❖ 処女降誕の重要度の濃淡

1. 受肉に必須の教理なのか
2. イエスの罪のなさに必須なのか
3. 受肉の現実を象徴化する点で価値がある？
 1. 救いの超自然性を思い起こさせる
 2. 救いは完全に神の恵みであることを思い起こさせる
 3. 救い主イエスの独自性の証拠である
 4. 自然を超えた神の力と主権の証拠である



5 . イエスの罪のなさ

1. イエスは罪を犯したのか、また罪を犯すことができたのか。
2. 聖書はイエスの罪なき方であると証ししている
3. イエスは罪を犯すことができた。しかし犯されなかった
4. 誘惑のまったき力を知っておられる
5. 罪を犯さない人は真の人間なのか



6. イエスの人性の意味合い

1. イエスの贖いの死は役に立つのか？
2. イエスは私たちに同情し、とりなしてくださるのか？
3. イエスは人性の真の性質を明らかにしておられる
4. イエスは私たちの模範である
5. 人間の性質は良きものである
6. 神は完全に超越されているだけのお方ではない